

昭和十六年十二月八日

帝國政府聲明

恭しく宣戦の大詔を奉載し茲に中外に宣明す、抑々東亞の安定を確保し、世界平和に貢献するは、帝國小動の國是にして、列國との友誼を敦くし此の國是の完遂を圖るは、帝國が以て國交の要義と爲す所なり然るに、幾に中華民國は、我眞意を解せず、徒らに外力を恃んで、帝國に挑戦し來り、支那事變の發生を見るに至りたるか、御稜威の下、皇軍の向ふ所敵なく、既に支加は、重要地點悉く我手に歸し、同曼具眼の士國民政府を更新して帝國は之と善隣の誼を結ひ、友好列國の國民政府を承認するもの已に十一國の多きに及ひ、今や重慶政權は、奥地に殘存して無益の抗戦を續くるに過ぎず、然れども英米兩國は東

0761

亞を永久に隸屬的地位に置かんとする頑迷なる態度を改むるを欲せず、
百方支那事變の收結を妨害し、更に蘭印を使略し、佛印を脅威し、帝
國と泰國との親交を裂かむかため、策動至らざるなし、仍ち帝國と之
等南方諸邦との間に共榮の關係を増進せむとする自然的要求を阻害す
るに寧日なし、その狀恰も帝國を睨視し帝國に對する計畫的攻撃を實
施しつつあるものの如く、遂に無道にも、經濟斷交の舉に出づるに至
れり、凡そ交戰關係に在らざる凶暴間における經濟斷交は武力に依る
挑戰に比すへき敵對行爲にして、それ自體默過し得ざる所とす、然も
兩國は更に與國を誘引して帝國の凶恣に武力を増強し、帝國の存立に
重大なる脅威を加ふるに至れり

帝國政府は、太平洋の平和を維持し、以て全人類に戰禍の波及するを

防止せんことを願念し、絨土の如く帝國の存立と東亞の安定とに對する脅威の激甚なるものあるに抑らず、隱忍自重八箇月の久しきに亘り米國との間に外交々涉を重ね、本國とその背後に在る英國並ひに此等兩國に附和する諸邦の反省を求め、帝國の生存と權威との許す限り、互諱の精神を以て事態の平和的解決に努め、盡す可きを盡し、爲す可きを爲したり、然るに米國は、此らに架空の原則を弄して東亞の明々白々たる現實を認めず、その切實勢力を恃みて帝國の眞の國力を侮らす、與國とともに露はに武力の増大し、以て帝國を屈從し得へしとなす、かくて平和的手段により、米國ならひにその與國に對する關係を調整し、相携へて太平洋の平和を維持せむとする希望と方途とは全く失はれ、東亞の安定と帝國の存立とは方に危殆に類せり、事茲に至る、遂に米國及び英國に對し宣戰の大詔は渙發せられたり、聖

旨を奉體して洵に恐懼感激に堪へず、我等臣民一億鐵石の團結を以て
蹶起勇躍し、國家の總力を挙げて征戰の事に従ひ、以て東亞の禍根を
永久に芟除し聖旨に應へ奉るべきの秋なり、

惟ふに世界萬邦をして各々その處を得しむるの大詔は、炳として日星
の如し、帝國か日滿華三國の疵に依り、共榮の實を舉げ、進んで東
亞興隆の基礎を築かむとするの方針は、固より渝る所なく、又帝國と
志向を同しうする獨伊兩國と盟約して、世界平和の基調を劃し、新秩
序の建設に邁進するの決意は、益々牢固たるものあり、而して、今
次帝國か南方諸地域に對し、敢て行動を起すの已むを得ざるに至る、
何等その住民に對し敵意を有するものにあらず、只米英の暴政を排除
して東亞の明瞭本然の姿に復し、相携へて共榮の榮を頌たんと冀念す

0764

るに外ならず、帝國は之等任氏、我々眞意を諒解し、帝國と共に、
東亞の新天地に新なる發足を期すべきを信じて是はさるものなり、今
や皇國の隆替、東亞の興廢は此の一舉に懸れり、全國民は今次征戰の
淵源と使命とに深く思を致し、句も懈ることなく、又怠る事なく、克
く竭し克く耐へ、以て我等先人の志願を顕彰し、難關に逢ふや必ず國
家興隆の基を啓きし我等祖先の如きたる史績を仰ぎ、雄渾深遠なる皇
謨の眞實に萬遺憾なきを誓ひ、是にて征戰の目的を完遂し、以て聖慮
を永遠に安し奉らむことを期せざるべからず

0765